

(様式5)

令和4年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	特別活動(特活)	
重点課題	意欲的かつ主体的な児童生徒会活動への参加	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部5、6年、中学部、高等部の児童生徒が年2回ボランティア活動(地域清掃)やさわやか運動に参加したり、年間を通してペットボトルキャップ回収のエコキャップ運動に取り組んだりしている。 ・執行部の校内放送や委員会活動等、個々での活動に取り組む機会は多くあるが、特定の児童生徒の活動にとどまっており、児童生徒会が一体となって取り組む機会は少ない。 	
達成目標	全校参加での生徒会活動	
	5回以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会コーナーを設け、多くの児童生徒が関心を示す機会を増やす。 ・執行部や委員会活動等の掲示板を有効に利用し、広報活動等を積極的に行う。 ・エコキャップ回収箱や分別セットの設置、学部学年単位に材料を配布するなどして誰もが参加しやすい形態にする。 ・全校児童生徒に活動参加ポイントカードを配布し、自主的・意欲的な参加を促す。 	
達成度	100%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ大会やマラソン大会に出場する選手に向けた応援の気持ちを形にしようと横断幕を掲示することを考え、そこに応援メッセージを書き入れるシールやマジックと一緒に設置した。 ・ボランティア週間では従来の取り組みの他に、エコキャップ選別グッズを各学年に配布したり新しく集計表を工夫して掲示したりした。 ・さわやか運動では、周知・関心を高めるため児童生徒が「さわやかシール」を貼るための横断幕を、校内3か所に順に掲示した。 ・児童生徒会活動へより意欲的に参加を促すため、児童会・生徒会ポイントカードを配布し参加した際には華やかなシールを貼った。 ・部活動や委員会のメンバー、活動内容、目標などを掲示コーナーに表示するなど、コーナーの充実を目指した。 	
評 価	A	5つの分野で5回以上の全校生徒の参加を目指した児童会、生徒会活動を行った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃ボランティアは、地域住民に知られていない。広報誌等で地域に伝えていきたい。また、地域としても協力したい。 ・とてもよい取組であり、児童生徒の活動の様子をホームページで情報発信すべきである。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、地域代表の学校評議員から地域との協働の提案をいただいた。どのような活動が可能か検討し、実践していきたい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他（ICT機器の活用）	
重点課題	教員のICT活用能力の向上を図る	
現 状	<p>文部科学省のGIGAスクール構想による一人一台端末配備が本校においても行われ、昨年度までに児童生徒及び教員にタブレット端末（iPad）が配備された。また、電子黒板や大型モニター、プロジェクタなども各学部に配備され、ハード面での環境は整ってきている。しかし、タブレット端末を学習に有効的に活用するためのアプリケーションが不十分であったり、教員のITスキルにばらつきがあったりして、ソフト面での課題が見られる。今年度は、教育向けクラウドサービス「Google for Education」の児童生徒及び教員の利用を予定していることから、より一層の教員のITスキルが求められる。タブレット端末のアプリケーションの充実と教員のICT活用能力の向上が必須である。</p>	
達成目標	<p>授業等でICTを活用した教員の割合</p> <p>75%以上</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末に、児童生徒の実態に応じたアプリケーションをインストールしソフト面での充実を図る。 ・授業ですぐに活用できるような実践的な研修や情報提供を行う。 	
達成度	94%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に全教員及び児童生徒へのiPadの貸与が完了したことから、申請フォームを作成し、インストール申請のあったものから、順次アプリケーションのインストールを行った。現在のところ共通アプリを全教員と児童生徒に、また個別対応で教員20台、児童生徒43台にアプリケーションのインストールを行った。 ・夏季休業中の2日間、「iPadの基本アプリについて」「Googleアプリの活用例」「パワーポイントで教材づくり」の3講座を1講座90分で希望者を募り実施した。各講座、受講者が実際に操作し、体験することに重点を置いた。延べ107名の参加となった。 ・ICT教育推進事業の一環として、各各部1授業を互見授業とし、授業の様子をビデオに録り、だれでも見ることができるよう公開し、授業例として情報提供を行った。 ・9月より月に1度、情報通信技術支援員による教育クラウド（Google）のアプリを使用した20分のミニ研修会を3回行った。 	
評 価	A	ハード及びソフト面での充実と、体験的、具体的な研修をきっかけに、授業等でICT機器を使う教員が増えた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・年代分析も行ったらよかったのではないか。年代別のICT機器の利用の仕方もあるのではないか。 ・iPadを利用して写真や動画を楽しんでいるのがよい。年齢的に早い段階からiPadを楽しむ、慣れることが大切であると考える。 ・全ての教員がICTのエキスパートになる必要はない、学部、学年単位のグループの中の数名の教員が中心となって、周りの教員のサポートなどを行う。 ・iPadの保管場所や使用について、ネットモラルやセキュリティ管理をしっかりとすることが大事である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員及び児童生徒のICT機器の利用に伴う、情報セキュリティポリシーなどネットモラルについての理解を深めることが必要である。 ・教員の年代や習熟度なども考慮した、研修内容を考える必要がある。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（総務）	
重点課題	コロナ禍での安心・安全で充実したPTA活動への取組	
現 状	<p>本校は「“楽しむ” “つなぐ” “学ぶ” PTA活動」のスローガンのもと、毎年役員を選出し、執行部と五つの委員会に分かれて活動を計画し、実行している。新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度はほとんど活動できなかったが、昨年度は感染予防対策（手洗い、消毒、マスクの着用、体温や体調のチェック、換気）を行いながらできる活動を計画した。学部委員会は、ミニ講演会を、2回目以降はビデオ視聴とすることで、分散して行った。文化活動委員会は、「親と子の集い」の参加人数を制限し、回数を増やして行った。PTA活動が少しでもできてよかったという意見があったが、ビデオ視聴による講演では内容が聞き取りにくい、直接講師の先生に質問したかったなど不満が残る点もあった。今年度も新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがもてない中で、感染予防対策を行いながら、安心・安全で充実した活動を考え、取り組んでいきたい。</p>	
達成目標	PTA活動の実施	
	年間5回以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 委員会ごとに集まり、参加人数を制限したり活動時間を短縮したりすること等、感染予防対策を行いながらも充実した内容になるような、活動を計画する。具体的には、資源回収やPTAたよりの発行、親と子の集いの実施、引渡し訓練の参加、施設見学を予定している。活動内容や様子をたより等で伝えるようにし、情報の共有を行う。 各活動の終了後にアンケートをとり、活動を振り返る。 	
達成度	100%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 総務委員会：軍手を着用し新聞紙や雑誌等のトラックへの積込みを年2回行った。 広報委員会：短時間でPTAたよりの編集作業を年2回行った。 文化活動委員会：参加人数を制限して、親と子の集い（陶芸教室）を2日間に分けて実施した。 学部委員会：3回に分散して引渡し訓練を行った。 進路研修委員会：卒業した保護者から進路に向けての体験談を聞く進路研修会を実施した。 各行事実施後、感想や質問等をアンケートでとった。感想は参加してよかったというものがほとんどであった。進路研修会の内容や引渡し訓練後のアンケートにあった質問の回答を後日プリントにまとめて全会員に配付し、情報の共有を行った。 	
評 価	A	十分に感染予防対策を行いながら、五つの委員会それぞれが各委員会のスローガンにあった活動を企画し運営することができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防対策が細やかに行われている。 引渡し訓練については、災害時は引渡しが難しいと聞く。また、東海老坂地区はここ最近、災害が多くなってきている。地域と学校が連絡を取り合い災害状況や交通状況を周知し合うなど、災害時に協力し合える対策を考えていきたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの移行に応じて、感染予防対策やPTA活動の内容を検討し、引き続き安心・安全なPTA活動の企画・運営を行う。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）